

岩倉市特別職報酬等審議会（第2回）会議録（要約）

日 時 令和2年1月23日（木） 午前10時～午前11時
場 所 岩倉市役所 7階 第1委員会室
出席者 （委員）小林由洋、岡島正利、赤尾光清、渡辺正徳、伊藤憲治、廣中大雄、
樋口博明、山田幹夫、小笠原三代子
（事務局）総務部長 山田日出雄、秘書企画課長 伊藤新治、同統括主査 加藤淳、同主任 伊藤俊樹
欠席者 （委員）東野広隆

1 会長あいさつ

2 審議

統括主査より配布資料の説明。

（会長） 配布資料について質問があれば出していただきたい。

（委員） 資料3で、基本成果指標（幼い子どもを育てる所として“良い”と思う市民の割合）の現状値が、平成30年度は28年度、29年度より目標値に対する乖離が大きい、単位施策ごとの評価を◎とした理由は何か。また、資料5で、市長マニフェストで何をやったかということは分かったが、どの程度成果が出たのか、課題があればそれをどのようにすべきと市長は考えているのかを教えてほしい。

（事務局） 資料3にある基本成果指標は、市民意向調査や市民アンケートから算出しており、確かに平成30年度は28年度や29年度と比較し下がった。しかし、単位施策ごと評価は、その下にぶら下がる個別施策の積み上げにより評価しており、これらが充足してきていることから、◎としている。

（事務局） 平成30年度については第5次総合計画の策定に向けて、3か年分を評価の対象として総合的に評価した。

（委員） しかし、そうであっても市民感覚からは乖離が大きいと感じた。

（事務局） このシートにある子育てに関する施策については、近年幼保無償化など制度の大きな変更もあり、市民ニーズが大きくなったことが市民アンケートの結果に跳ね返っていると考えられる。しかし、市も保育園の定員の増員や学童保育等の充実化を図っており、これらから単位施策を評価しているものである。

（事務局） マニフェストについては、市長が公約に掲げたものであり、

資料5ではその進捗度合いを示したものである。その中で、例えば駅前にぎわい広場の設置や一宮春日井線の東への延伸などの項目は、中期的に計画して実施していくものであることから課題として認識し、残り1年の任期の中で進めていくものと考えている。

(事務局) マニフェストの実施状況等についての市民アンケートはこれまで取っていないことから、このことについて市民から評価を受けたということはない。

(委員) 結果として、市民が暮らしやすい、過ごしやすいなどの評価が出ていると評価はしやすいと思う。

(事務局) 平成30年度に実施した市民意向調査で、総合的な住みやすさは、どちらかという住みやすいも含めると79.5%であり、前回の5年前は76.8%であることから若干評価が上がっている。また、岩倉への定住意向の項目も同様に上昇している。これらは個々の施策に対する評価ではないものの、総体的に見れば、岩倉というまちの評価は上がってきていると考えている。

(委員) 前市長の評価もあると考えるが。

(事務局) 任期ごとでアンケートを取っているわけではないので、一概には言えないと思うが、現市長の任期中の期間もあるのでご理解いただきたいと思う。

(委員) 資料6で、法人市民税が平成28年度以降下がっているが、市内企業の業績が落ち込んだのか、あるいは税収のある企業が他自治体に移転したのか、状況が分かれば教えてほしい。

(事務局) 税収の高い企業の業績が下がったためであると聞いている。

(委員) 企業誘致するにあたり、税収の高い企業を選定すべきと考えるが、市はどのように選定するのか。

(事務局) 税収だけでなく、雇用の創出などについて好影響を与えてくれる企業を選定すべきと考える。

(委員) 平成28年度から30年度までの間に市内から移転した企業や本社機能を移転した企業はどのくらいあるか把握しているか。

(事務局) 特に大きな企業で市内から移転があったという話は聞いていない。本社機能を移転した企業があるという話は聞いたことはあるが、どこがいつということまでは把握していない。

(会長) その他資料に関して質問はあるか。

(質問する者なし)

- (会長) 質問もないようであるので、特別職の報酬等についてどうすべきか各委員より意見を伺う。名簿順に伺うこととするが、渡辺委員が 11 時に他用により退席すると伺っているので、先に意見を伺いたいと思う。
- (委員) 資料 4 から岩倉市の特別職の報酬等については決して低い数字ではない。財政力指数も提示されたが、これは企業のキャッシュフローと同じようなものであると理解しており、そのすると施策の達成度が報酬を決定する際の基準になろうかと思う。施策の評価については、自己の評価がどうかという疑問も残るが次回までの課題ということとし、今回は据え置きが妥当かと思う。
- (会長) 以降は名簿順に意見を伺う。
- (委員) 据え置きが妥当である。市民アンケート等からも概ね市民からの評価は高いことが伺え、また施策も順調に進んでいることが施策評価の結果から伺うことができる。しかし、数値が大きな変化を確認することができず、また県内同規模の自治体と比較しても決して安くないことから、そのように判断した。
- (委員) 以前、稲沢市と同額であったことから、同様に引き上げてもよいかと思ったが、今回は据え置きが妥当であると判断した。次回以降は、諮問の段階で報酬をどうするかの方針が示されると議論がしやすくなると思う。
- (委員) 全体的に指標は右肩上がりであることや一般職の給料も上昇していることは評価できる。皆さんに伺いたいが、昨年度の不祥事は今回の報酬の議論に考慮すべきと考えるか。
- (委員) 減給されているはずである。
- (事務局) 現在、申し出により減給している。
- (委員) 既に考慮されているということであるならば、今回は据え置きが妥当と考える。
- (会長) 本日欠席の東野委員については、意見等を事前に聞いているか。
- (事務局) 出席委員に一任すると聞いている。
- (会長) では、出席委員の意見のみで決することとする。続いて名簿順に意見を伺う。
- (委員) 引上げが妥当である。次回以降、決定するための基準などが示されると議論がしやすくなるので、提示を要望する。

(会長) 引上げとなると、どのぐらい引き上げるかを議論しないといけないが、これまでの評価を勘案し、漠然としているが引上げ以上であるという解釈でよいか。

(委員) それで構わない。

(委員) 条件付きで据え置きとしたい。前回の資料から人口、財政力等同程度の自治体と比較して高い位置にいることから引下げでもおかしくはないと思ったが、マニフェストの進捗状況等がそれを相殺することで、据え置きであると判断した。条件とは、次回以降、報酬を決定するにあたって基準を作ってほしいということである。要素は様々であるが、何らかの形で示してほしいと思う。また、開催時期もこの時期が妥当であるか、検討してほしい。

(委員) 引下げが妥当である。特別職の報酬等は、市の規模で決定すべきと考えており、その指標は人口で決まると思う。近隣自治体では、江南市が人口 10 万人であるが、岩倉市より市長の給料が安いので、江南市並みに引き下げてよいと考える。

(会長) 議員報酬についてはどうか。

(委員) 議員報酬については維持でよいと思う。三役について、江南市並みとすべきと考える。

(委員) 2年前初めてこの審議会に出たときは、市長は就任間もなかったことから、次回マニフェスト等の評価をしようとなったと記憶している。前回の審議会でも話をしたが、やはり下げるということは、意欲の低下にも繋がりがねないので、据え置きが妥当だと思う。市長は不祥事があると自ら減給する責任ある立場であるので、ここで引下げをするべきではないと思う。

(会長) 委員の意見より、据え置き 6 人、引上げ 1 人、引下げ 1 人のことであった。多数決により、今回の答申は据え置きとすることとしてよろしいか。

(意見する者なし)

(会長) 意見なしのため、据え置きとすることとする。市長への答申については、私に一任ということによろしいか。

(意見する者なし)

(会長) 意見なしのため、私に一任していただいきたいと思う。これにて審議を終了する。

3 その他

- ・報酬は2回分まとめて、2月5日（水）に支払う。